

2019年12月23日

あおぞら投信株式会社

「上げ下げを 当てることなど ままならず ただ企業とは 力を活かすや」

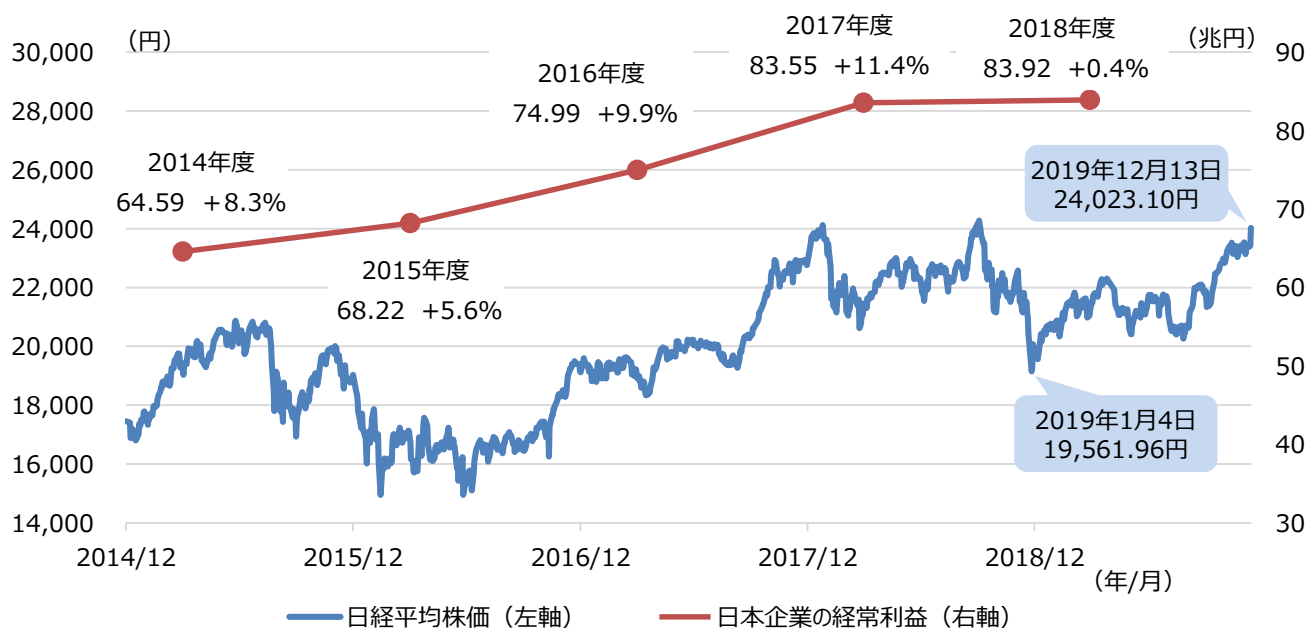
日経平均株価は今年12月13日、昨年(2018年)10月以来の24,000円台をつけました。昨年の相場は10月初から12月のクリスマスにかけて約5,000円(20%)の下落を記録して、すっかり市場参加者の気持ちを冷やしてしまいました。その後は、年初の19,561.96円から約1年をかけて再び24,000円台を回復する動きとなりました。では、来年に向けて日本株の相場についてはどのように見れば良いのでしょうか。

まず私は、今年1月の相場予測で「年末に向けて24,500円を試す展開」と述べました。ポイントは「各企業における生産性の向上」をあげています。この点についてはまだ改善の余地も大きく、来年の予測でも同様に力を握ると考えています。日本の企業にとって真の働き方改革とは「生産性の向上」にあると考えるからです。さらに株価にとって重要なことは「資本の効率化」があげられます。依然として外部環境について不透明感は払拭できない状況が続くと思われませんが、米国では大統領選があり経済界にとってフォローの政策が出される可能性があります。中国については、米国との貿易摩擦が他のアジア各国との貿易停滞に繋がることは避けたいため、ある一定の譲歩を選択する可能性は十分にあるとみます。そして、英国のBREXITについても選挙により方向性が出たことで、ようやく欧州は停滞からの脱出となり新たな施策が動き出すと考えます。これらに加えて米国の主な株式指数が静かに過去最高値を更新したことに見られるように、株式市場への投資のマネーフローが継続することが大きな下支えとなります。サウジアラビア国内では、サウジアラムコの上場により世界の時価総額企業が誕生しましたが、依然として最大の資本市場を牽引する米国株式市場の安定的な動きが重要なヒントになります。自社株買いと企業買収の伸展、新たな企業価値の創造が進み、日経平均株価は2020年末には27,500円を静かに目指す展開を予想します。

*上記は筆者の考えであり、当社の統一された見解ではありません。

柳谷俊郎

日経平均株価と日本企業の経常利益総額の推移



※グラフの期間は日経平均株価は2014年12月末～2019年12月13日時点まで、経常利益総額は2014年度～2018年度まで、%は伸び率(前年比)を表しています。出所:日本経済新聞社、財務省「年次別法人企業統計調査(平成30年度)」を基にあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号: あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第2771号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス: <http://www.aozora-im.co.jp/>